

要養護児童の「社会的排除」とその克服に向けて

—児童養護施設のエスノグラフィー—

谷口 由希子（日本福祉大学大学院）

1. 研究の目的

先行研究において、家族の貧困・排除問題が子どもに累を及ぼしていることは明らかにされ（久富編：1993、青木編：2003 他）、この状況は「貧困の子ども化」（青木：1997 他）として注目されている。本研究では、子どもの貧困・排除（child poverty）問題が将来へのリスク因子となり、再生産されていることが問題視している。そのため、「それを克服するためにはどうすれば良いのか？」というリサーチ・クエスチョンに始まる。

「家族依存」（青木：2003）の福祉政策の中では、「家族」がない、あるいはその役割が機能していない脆弱な生活基盤の中で育つ子どもたちは、社会的に排除されていると位置づけられよう。上記の問題意識から、ここでは排除されてきた子どもたちのセーフティネット（社保審：2003）となるシステムである児童養護施設に焦点を当てる。施設を再生産を克服するための機関であると位置づけ、分析をすすめる。社会は生活困難にある子どもたちとどう向き合うのか、さらに、子ども時代に付与されたリスク因子を乗り越え、施設退所後の「社会的排除」を防ぐために現在の日本のシステムは何ができるのか。

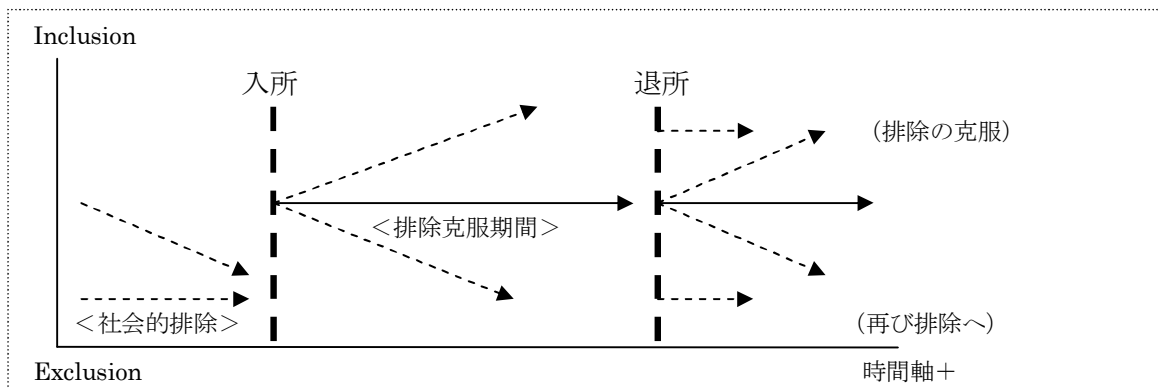
本研究では、実際には、施設において子どもどうしや職員とのかかわりのなかで、子どもたちがどのように生活を立て直していつているのか、すなわち、現実的にどのように権利が保障されているか検証し、排除の克服と困難性のメカニズムについてエスノグラフィーの結果から明らかにする。

2. 分析モデルおよび調査方法

本研究では分析枠組みとして、「社会的排除」概念を用いる。「社会的排除」の定義については、未だ議論が続いているものの、Giddens（2001：323-331=404-426）の定義によると、社会への十分な関与から人々が遮断されている状態を指す。「社会的排除」概念の利点は、＜過程＞—排除のメカニズム—を強調しているところにあり、個人や集団が住民の大多数に開かれている機会を享受するのを妨げる一連の多様な要因に焦点を当てている。

これに基づいた場合、児童養護施設に入所している子どもは、入所期間中は社会とのつながりが保たれ、権利が保障される。入所期間は生活の立て直しを行うことができ、言い換えれば「排除克服期間」であると位置づけられよう。

（図1）社会的排除された子どもと施設入所による発達保障の時間軸のモデル



(図1)は、社会的に排除されてきた子どもが児童養護施設に入所することによって排除の克服に向かうモデルである。ただ現実には、施設を取り巻く環境、施設のケア基準や子どものもつ発達課題、さらに施設そのものがもつ課題によっても排除の克服の度合いは分散していると考えられる。ここでは、退所後に再び社会的排除に陥らないためには入所中においてどのような要因が前提となるのか、について検討を加える。とりわけ年齢満期による退所に向けて、住宅、労働に代表される排除を克服するための物理的要件ではなく、自立のために施設内で行われている要件から、排除の克服を検討する。

調査方法は、非統制的観察による児童養護施設のエスノグラフィーを史資料の中心とする。これと同時に参与観察法のバイアスを考慮し、入所している子ども・退所した元入所者・職員・学校関係者・児童相談所のワーカーなどのインタビュー調査(エスノグラフィックインタビュー、非構造化面接)を用いる(調査期間2005年5月～)。

3. 調査結果の概要

①「排除」克服のプロセス

子どもは施設入所によって、入所前の生活困難から生活を安定させることができる。施設入所期間は生活の安定と同時に子どもが社会化され、希望や誇りを取り戻していく過程である。その過程では、施設職員や学校教職員、児相のワーカーや地域住民、施設内や地域の子どもの「かかわり」がある。

②困難性のメカニズム

施設や児相のケアプログラムに十分に乗りきることができず、いまひとつ変わることができないまま退所を迎える子どももいる。

③社会の中にある「排除」構造の問題

とりわけ、施設を退所した元児童に対する制度は限られており、支援は届きにくい。退所後はふたたび脆弱な生活基盤に陥ることとなり、子どもはリスクと隣り合わせになりながら生活している。元児童の「がんばり」とそれを支える社会的資源が「排除」克服を維持する要件となる。

※本研究は、報告者がCOE 研究員として日本福祉大学21世紀COEプロジェクト「福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点」による若手研究者育成のための助成を受けた研究である。

【参考文献】

青木紀(1997)「貧困の世代的再生産—教育との関連で考える」庄司洋子、杉村宏、藤村正之編『貧困・不平等と社会福祉』有斐閣

青木紀(2003)「貧困の世代的再生産の視点」『現代日本の「見えない」貧困—生活保護受給母子世帯の現実』青木書店

Giddens,Anthony(2001) *Sociology 4th edition* Policy=松尾精文他訳(2004)『社会学第4版』而立書房

小西祐馬(2006)「子どもの貧困研究の動向と課題」『社会福祉学』第46巻第3号 日本社会福祉学会

久富善之編(1993)『豊かさの底辺に生きる—一学校システムと弱者の再生産—』青木書店

Piachaud,D&Sutherland,H(2002) *Child Poverty Understanding Social Exclusion* Hiis,J, Le Grand, Piachaud,D eds Oxford University Press

社会保障審議会児童部会(2003)「社会的養護のあり方に関する専門委員会」報告書